



## ボツワナ共和国

Republic of Botswana

2007年11月現在



### 一般事情

- 1.面積 58.2万平方キロメートル(日本の1.5倍)
- 2.人口 180万人(2005年:世銀)人口増加率-0.2%(2005年:世銀)
- 3.首都 ハボローネ(Gaborone)
- 4.民族 ツワナ族、カラング族、ムブクシュ族等
- 5.言語 英語、ツワナ語(国語)
- 6.宗教 キリスト教、伝統宗教
- 7.国祭日 9月30日(独立記念日)
- 8.通貨 プラ(Pula)  
為替レート 1米ドル = 6.08プラ(2006年12月)  
補助通貨単位 100テベ = THEBE

### 9.査証(ビザ)

10.在留邦人数 36人(2007年11月)

11.在日当該国人数 11人(2004年7月)

12.電源 - V - Hz

13.国際電話 国番号 267 国際通話コード 0

14.シガレット 小売価格 1.26 US\$ (20本当り)

税率 51.1%

製造数量 1,360 (百万本/年)

シガレットメーカー **No Cigarette Manufacturers in this Country**

コンセント・タイプ

### 15.略史

| 年月    | 略史                                 |
|-------|------------------------------------|
| 1885年 | イギリス保護領となる。                        |
| 1891年 | 駐南ア英高等弁務官の管轄となる                    |
| 1966年 | 独立(初代大統領カーマ大統領)                    |
| 1980年 | マシーレ大統領就任                          |
| 1998年 | マシーレ大統領引退(3月31日)<br>モハエ大統領就任(4月1日) |
| 1999年 | モハエ大統領再任(10月20日)                   |
| 2004年 | モハエ大統領再任(11月2日)                    |

16.在外大使館・領事館 なし

### 17.駐日大使館・領事館

ボツワナ共和国大使館

Embassy of the Republic of Botswana in Japan

〒108-0014 港区芝4丁目5-10 カーニー・プレイス芝ビル6階

電話:03-5440-5676

### 政治体制・内政

1.政体 共和制

2.元首 フェスタス・フォンテバーニエ・モハエ大統領 (Festus Gontebanye Mogae)

2004年11月2日就任(任期5年)、2期目

3.議会 一院制国民議会

4.政府 副大統領:セレツェ・カーマ・イアン・カーマ

外務国際協力大臣:モンパティ・セボホディ・ムラフェ

### 5.内政

(1)独立当初より、複数政党制による議会運営が行われ、ボツワナ民主党(BDP)が政権を維持してきている。

(2)1998年3月31日、かねてから引退を表明していたマシーレ大統領が引退し、同4月1日、憲法の規定によりモハエ副大統領兼財務・開発計画大臣が第3代大統領に就任した。

(3)1998年6月、野党ボツワナ国民戦線(BNF)の13党員のうち11名がBNFを離党しボツワナ議会党(BCP)を結党した。

(4)2004年10月30日、国民議会選挙が実施され、定数57議席中BDPが44議席を獲得し、モハエ大統領が再選された。

野党ではBNFが12議席、BCPが1議席を獲得した。

### 外交・国防

#### 1.外交基本方針

穏健な親欧米外交。

従来フロントライン諸国の一員として反南ア政治姿勢をとっていたが、南アの民主化に伴ない、緊張関係状態は改善。

その結果、外交政策にも幅ができ、南部アフリカ諸国の経済的統合を目的とする南部アフリカ開発共同体(SADC)の議長国(1980年~1996年8月まで16年間)として積極的な外交を展開。

2005年8月にはボツワナでSADC首脳会議が開催され、議長国(2006年8月まで)となった。

また、1995年より2年間国連安全保障理事会の非常任理事国を務めた。

## 2.軍事力

- (1)2004年国防予算 348百万ドル
- (2)兵役 志願制
- (3)兵力 総兵力10,500人(陸軍8,500人、空軍500人、パラミリタリー1,500人)

## 経済

- 1.主要産業 (農)こうりゃん、メイズ (畜)牛、羊 (工)食品加工  
(鉱)ダイヤモンド、銅、ニッケル、石炭
- 2.GNI 9,900百万米ドル(2005年:世銀)
- 3.一人当たりGNI 5,590米ドル(2005年:世銀)
- 4.経済成長率 6.2%(2005年:世銀)
- 5.物価上昇率 8.7%(2004年:世銀)
- 6.失業率 24%(2004年:Bank of Botswana)
- 7.総貿易額  
(1)輸出 46.19億ドル(2005年:EIU)  
(2)輸入 28.24億ドル(2005年:EIU)
- 8.主要貿易品目(2004年)  
(1)輸出 ダイヤモンド、銅・ニッケル、牛肉、繊維製品  
(2)輸入 機械・電気製品、飲食料、車両
- 9.主要貿易相手国(2005年)  
(1)輸出(%) 英国 75.7、南部アフリカ関税同盟諸国 9.0、ジンバブエ 4.1  
(2)輸入(%) 南部アフリカ関税同盟諸国 85.1、ジンバブエ 1.5、英国 1.3
- 10.通貨 ブラ(Pula)
- 11.為替レート 1米ドル = 6.08ブラ(2006年12月)
- 12.経済概況

(1)独立当初は、牛肉の輸出に依存する経済であったが、1967年以降ダイヤモンド、銅等の鉱物資源が発見されたため、これらの資源開発に南ア、米、英、独等が進出し、経済不振に悩む他のアフリカ諸国と対照的に急速な経済発展を遂げた。

(一人当たりのGNPは、1967年の94米ドルから1989年の2,080米ドルへと上昇し、LDCから卒業した。)

(2)1989年以降、ダイヤモンドの世界市況の低迷が続いたため、それまで二桁台を誇ったボツワナの経済成長率は5.6%に激減した。1993年には、独立以来初めてのマイナス成長(-0.1)を経験したが、翌年には、4.1%に回復した。

1997年の一人当たりのGNPは、3,216米ドルとなり、中所得国に分類されるに到っている。

(3)1999年、ダイヤモンドは前年比67%増を記録し、世界第3位の生産量となった。

また、観光、金融が10%台の伸び、製造業が5%の伸びを示した。

(2004年ダイヤモンド産出額世界第1位、産出量世界第2位)

(4)2003年4月からは、第9次国家開発計画(2003年4月～2009年3月)を開始、産業の多角化、雇用の拡大さらには外資の誘致などに積極的に取り組んでいる。

1999年初めには為替の自由化を実施し金融部門の発展も目指している。

## 経済協力

- 1.我が国の援助実績(2005年度までの累計)(単位:億円)
  - (1)有償資金協力 132.46(2005年度実績なし)
  - (2)無償資金協力 29.26(2005年度0.35億円)
  - (3)技術協力実績 41.54(2005年度1.91億円)
- 2.主要援助国(2004年、単位:百万米ドル)  
(1)米(21.1)(2)独(3.8)(3)仏(1.9)(4)ノルウェー(1.6)(5)デンマーク(1.3)

## 二国間関係

### 1.政治関係

- 1966年9月 独立と同時に承認(1997年6月1日より在南ア大が管轄)  
1997年8月 駐日ボツワナ大使館(臨代)開設  
1999年4月 駐日特命全権大使着任

### 2.経済関係

- (1)我が国の対ボツワナ貿易(財務省貿易統計)
  - (イ)貿易額(2006年:財務省貿易統計)  
輸出 11.2億円  
輸入 29.5億円
  - (ロ)主要品目(2004年)  
輸出 乗用自動車(76.5%)、ロータリーエンジン(11.5%)、合成繊維織物(2.4%)  
輸入 ダイヤモンド(100%)
- (2)我が国からの直接投資 なし

### 3.文化関係

文化協定 なし

### 4.在留邦人数

36人(2007年11月)

### 5.在日当該国人数

11人(2004年7月)

6.要人往来

(1)往(1966年以降)

| 年月       | 要人名   |
|----------|---|
| 1966年    | 宮崎章特派大使(独立式典)   |
| 1994年1月  | 東外務政務次官   |
| 1996年11月 | 政府派遣南部アフリカ経済ミッション   |
| 2001年9月  | 鈴木宗男衆議院議員   |
| 2004年7月  | 日本・アフリカ連合(AU)友好議員連盟一行<br>松下忠洋衆議院議員、森岡正宏衆議院議員、<br>福井昭衆議院議員、小淵優子衆議院議員                 |
| 2006年7月  | 矢野哲朗参議院議員、椎名一保参議院議員   |
| 2006年7月  | 日本・アフリカ連合(AU)友好議員連盟一行<br>大野功統衆議院議員、小淵優子衆議院議員、<br>田中和徳衆議院議員、奥野信亮衆議院議員、<br>山谷えり子衆議院議員 |
| 2007年8月  | 西村康稔衆議院議員   |
| 2007年11月 | 甘利経済産業大臣  |

(2)来(1988年以降)

| 年月       | 要人名  |
|----------|--|
| 1988年    | チエペ外相  |
| 1988年    | ムシ副大統領   |
| 1989年2月  | チエペ外相(大喪の礼参列)  |
| 1990年11月 | マシーレ大統領(即位の礼参列)チエペ外相(随行)   |
| 1991年5月  | チエペ外相  |
| 1991年8月  | チエペ外相  |
| 1992年3月  | マシーレ大統領(公式実務訪問)チエペ外相(随行)   |
| 1992年6月  | モロモ教育相   |
| 1993年10月 | マシーレ大統領、チエペ外相<br>(アフリカ開発会議(TICAD I)出席)                               |
| 1994年5月  | メラフェ大統領府担当国務相  |
| 1996年3月  | メラフェ外相(外務省賓客)  |
| 1996年9月  | ブラックベアード農相   |
| 1997年12月 | ケレホベ公共事業・運輸・通信相(気候変動条約)  |
| 1998年10月 | モハエ大統領、マシーレ前大統領<br>(第2回アフリカ開発会議(TICAD II)出席)                         |
| 2000年6月  | モロモ国会議長(故小淵前総理葬儀参列)  |
| 2001年12月 | メラフェ外相(TICAD閣僚会合出席)  |
| 2003年3月  | モハエ大統領(世界水フォーラム出席)   |
| 2003年9月  | ハオラテ大蔵・開発計画大臣<br>(第3回アフリカ開発会議(TICAD III)出席)                          |
| 2004年8月  | チエペ前外相(故鈴木元総理葬儀参列)   |
| 2005年6月  | カーマ副大統領(外務省賓客)   |
| 2005年9月  | モカイラ環境・野生動物・観光大臣(旅行博出席)  |
| 2006年6月  | モハエ大統領、メラフェ外相、<br>ティボネ鉱物・エネルギー・水資源大臣、<br>モカイラ環境・野生動物・観光大臣(ボツワナ・ウィーク) |
| 2006年8月  | モロモ前国会議長(故橋本元総理葬儀参列)   |
| 2007年8月  | ケディキルウェ鉱物・エネルギー・水資源大臣<br>(故宮澤元総理葬儀参列)                                |

7.二国間条約・取極

1992年3月 青年海外協力隊派遣取極

8.外交使節

- (1)ボツワナ共和国駐箚日本国大使  
古屋昭彦特命全権大使(南ア常駐)(2006年7月より)
- (2)本邦駐箚ボツワナ共和国大使  
オスカー・モツワハエ特命全権大使(2005年8月より)